

紀元六世祖又年七月丙子高麗王王植遣
其臣崔東秀來言備兵一萬造船千隻詔
遺都統領朶兒往閱之就相視黑山日本
道路仍命耽羅別造船百艘以伺調用云
け云云を見れば後日本紀の云ふ六人の名は
や羽皇の事記はれずといへ大事の序に
國史の上を詳して後日考の爲とす

一大堂

西南に向て十七間東北へ十二間あり兼訪の
人内陣を見るもの少く其象の彫を壁に内
陣の奥に壇を據へ是を六間に仕切間と
に金具を以て戸を堅め軍事なりとそ又
内陣は親王軍多利妙見の二像并上下の二
龍あり何れも運芝の地とそ出羽守皮上龍
の勢をあらわす事羽澤記に見へたり翠簾
のちに九曜と七曜と志くも神鏡を藤原二
あり内陣の左右は間仕切て右より大玉の
像を安置し―権現の宝物を八室なり熊野
権現を勧修―左右は黒白の二熊を安置とそ
又秀衡の妹徳尼公の本像なりとあり大堂一